

情報連絡員報告総括表(令和8年3月期)  
富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	↗	→	↘	→	→	→	↘	・特になし。
	パン製造業	↘	→	↗	→	↘	↘	→	→	↘	・販売価格の値上げは進んでいるものの、原材料価格や諸経費の上昇分には追いついていない。 ・残業食の提供を取りやめる取引先企業が増えている。 ・消費者は、安い価格の商品しか買わなくなってきている。
	処理牛乳・乳飲料製造業	→	↘	↗	→	→	→	↘	→	↘	・特になし。
繊維工業	ニット製造業	→	→	→	→	↘	→	→	→	↘	・厳しい状況が続き、見通しも不透明な状況である。 ・中東情勢悪化の影響を懸念している。
	絹人織織物業	→	→	→	→	↘	↘	→	→	↘	・中東情勢の悪化に伴い、更に食料品などの値上げが予想され、生活必需品以外の織物商品の需要の停滞が危惧される。また、物流費や諸経費が益々上昇し、収益が悪化する不安感がある。
	綿・スフ織物業	↘	→	→	→	↘	↘	→	→	↘	・中東情勢の悪化で燃料費や原材料費の値上がりが続く、更に厳しい状態になっている。 ・中東向け製品の輸出が止まり、新規受注も停滞し始めている。
木材・木製品	一般製材業	↘	→	→	→	↘	→	↘	→	→	・県内の新設住宅着工戸数は、前年同月比40.8%減の大幅な減少となっている。この要因として、昨年3月は改正建築基準法の施行に向けた駆け込み需要で大幅に増加していたことが考えられる。 ・新設住宅着工戸数の大幅な減少による木材需要の落ち込みは、木材産業関係事業者の経営環境を一段と厳しいものにしていく。 ・ロシア材取扱木材関連事業者は、住宅需要が落ち込む中、製品価格を上げることも難しく、また、円安の長期化により国産材(スギ)への転換が進むことを懸念している。また、中東情勢の混乱により、コンテナ料金など物流コストの上昇などから厳しい環境にある。 ・プレカット工場については、住宅着工数の減少による稼働率の低下が継続しており、少ない仕事を採算度外視で受注し、業者間で取り合いになっている。 ・木材価格は、素材・半製品・製品ともに大きな動きは見られず、低位安定になっている。
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・井波彫刻業界に関心を持った国内外の学生が増えていることから、対応する人員や経費が不足しており、現在対応に困っている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
印	印刷業	→	→	↗	→	→	→	→	→	↘	・中東情勢悪化の影響は大きく、石油由来の資材が特に多い印刷業界では、値上がりが恒常化している中で更に値上がりが進むことは間違いなく、既に企業努力の域を超えている。
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・各社、人材の確保に苦労している。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比約107%と前年実績を2ヵ月連続で上回っている。 ・4月からの県全体の累積出荷量は、前年度比100.5%となっている。
	コンクリート製品製造業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	↘	↘	・特になし。
	骨材・石工品等製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・中東情勢の悪化により、工場に設置してあるトラックの燃料地下タンクの給油が停止された組合員もあり、影響が出てきている。 ・骨材需要は、堅調な状況が続いている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・中東情勢の悪化により、一部資材の調達難や価格の高騰など、影響が出始めている。 ・サプライチェーン(供給網)やエネルギー価格に関する不透明感が高まっている。
	銅・同合金鑄物製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	↘	・地金価格高騰の影響で、今までにない短いスパンでの価格変更を余儀なくされている。
	アルミニウム製品製造業	↘	→	↗	↗	→	→	↘	→	↘	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・組合員の事業状況について、先月から目立った変化はない。 ・共同給水の配管腐食が激しく、一部で漏水による浸水が発生し、工事を進めている。 ・共同受電については、キュービクルや電力計、変圧器などの更新を順次行っており、人件費や部資材価格高騰により、費用が2倍～3倍になっている。
	めっき加工業	↗	→	→	→	↗	→	→	↘	→	・3月は決算月の取引先が多く、売上の前年同月比は増加となり、好転への兆しが見られる。 ・売上が増加に転じたことから、収益状況も改善されている。
一般機器	金属工作機械製造業	↗	→	→	→	↗	→	→	→	→	・中東情勢の悪化により、輸出採算の悪化や世界的な設備投資の延期・凍結等のマイナス要因が暫く強く、現状景気後退が見込まれる。
	金属加工機械製造業	↗	→	→	→	↗	↗	↗	↘	↗	・特になし。
	非金属用金型製造業	↘	↘	→	→	↘	→	→	→	↘	・どの業種からも受注量が少ない状況である。 ・エネルギー、材料等の高騰と言うよりも、今後材料が調達出来るかも不透明で、先行きが読めない状況である。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	↗	↗	↗	→	↗	→	↗	↗	↗	・産業機器向け、民生電子機器向けともに、前年同月と比べて受注は好調である。 ・自動車向けは、概ね計画通りの受注がある。また、自動車向け新規設備の受注があり、売上は上昇基調である。 ・中東情勢悪化による影響は直接的にはないものの、一部海外で生産されている部資材については、供給が止まるかもしれないとの情報がある。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・景気の厳しい状況は続いているが、観光客誘致等に期待している。 ・中東情勢の悪化により、原材料等、物価上昇が懸念される。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
卸売業	セメント卸売業	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月は比較的天候に恵まれ工事が進捗したため、前年同月比114.9.%と増加している。4月～3月の売上累計については、前年比103.9%とプラスを維持している。</li> <li>・今後数年は、復興需要やダム関連工事等で今期並みで推移すると予想している。</li> </ul>	
	非鉄金属製品卸売業	↘	↗	↗	↘	↘	↘		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中東情勢の悪化によって、シンナーやパテの供給が急激に減少している。受注しても作れない、納品出来ないという不安が業界に蔓延している。</li> <li>・原材料価格の高騰が続き、価格転嫁し値上げする事業所が増えている。</li> </ul>	
小売業	鮮魚小売業	↘	→	↘	→	↘	→		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。</li> </ul>	
	食肉小売業	↘	↗	↗	↘	↘	↘		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油価格の上昇により値上がりした諸経費上昇分について、価格転嫁出来ずにいる。</li> </ul>	
	野菜・果実小売業	↘	→	→	→	↘	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月の富山卸売市場は、前年同月比で数量91%、単価99%、売上90%となっている。</li> <li>・組合員全体の売上については、前年同月比90%となっている。</li> </ul>	
	家庭用電気機器小売業	→	↗	→	→	→	→		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
	ガソリンステーション	↘	→	↗	↘	↘	↘			↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制など、SSの経営環境は依然として厳しい。</li> <li>・物価高による利用者の節約志向が響き、ガソリン販売量の減少は続いている。引き続き、需要の回復感は弱い。</li> <li>・中東情勢の悪化を受けて、原油価格が大幅に高騰し、安定供給に多大な支障が生じている。</li> <li>・一時、大幅に上昇したガソリン価格は、国の措置により多少落ち着いている。</li> </ul>
	スポーツ用品小売業	→	↗	→	↘	↘	↘		→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型商業施設の誘致開業で集客が取られる一方で、既存の大型商業施設の集客力が弱まっており、近隣事業者は専門性や外商を通じて踏ん張っている。</li> <li>・県立高校の募集定員割れの傾向で、学校販売商品の売上が減少している。</li> <li>・物価高傾向により、客単価、購入数が下がっている。</li> </ul>
ショッピングセンター	↘	→	→	↘	↘	→		→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物価高などにより、消費者の節約志向が益々強まっている。</li> <li>・運営コストが増加しており、非常に厳しい状況である。</li> </ul>	

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	商店街	→	→	→	→	→	→		→	→	・3月後半からは、新生活の準備のために、洋服やアクセサリーを扱う買回り品店や飲食店を訪れる客の姿が目立っている。 ・商店街の空き店舗が複数埋まる予定があり、そのインパクト効果に期待している。
	商店街	→	↘	→	↘	→	→		→	→	・販売価格が前年同月比で20%上昇したことで、売上が増加している。
サービス業	情報サービス業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	クリーニング業	→		↗	→	↘	↘		→	→	・コロナ禍以降の行動変容や物価高の影響によるクリーニング店の利用控えに加え、灯油等の燃料費の高騰、資機材の高騰によって、収益状況は悪化している。 ・価格転嫁も難しく、先行きが不安である。
	飲食業	↗		↗	→	→	→		→	→	・販売価格を上げた分、売上が前年同月比で4%増加している。
	建築設計業	↗		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・3月の自動車新車新規登録・届出台数(登録車と軽自動車の合計)は、前年同月比で3ヵ月連続で減少している。 ・新車販売市場は、ユーザーの潜在需要は底堅く推移しているものの、実質賃金のマイナスは続き、また幅広い分野で値上げの動きが広がっていることから、楽観できない状況である。一方で、2026年中の「環境性能割」廃止などが追い風となり、販売増を期待している。 ・自動車整備事業者は、各種自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えている。こうした課題に対応できない事業者は、自社の取扱い車種が加速度的に減少していく状況にある。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	↘		↘	↘	↘	↘		→	↘	・中東情勢の悪化に伴い、諸物価の値上がりと減産によるコストアップを理由に、高炉、電炉メーカーを問わず、値上げを打ち出している。 ・仕事量の少ない鉄骨加工業者にとって、二重苦、三重苦となっており、無理な安値受注を避け、雇用調整金の活用などを考え、乗り切らなければならない。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・中東情勢の悪化が長期化することで、各種建設資材の高騰に波及するのではと懸念している。 ・工事発注にあたり、適切な設計単価が設定されるのか、また、契約後に高騰が進んだ場合、増加分が請負工事費に反映されるのか、非常に心配している。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・新年度用公共工事における富山県の配管工労務単価は、1,600円アップとなっている。 ・景況に変化はない。
	電気工事業	↘		→	→	↘	→		→	↘	・企業の設備投資は順調だが、住宅着工件数、公共事業は減少で推移している。 ・中東情勢の悪化により、企業の設備投資による工事が停滞する恐れと共に、電線等が高騰しており、収益悪化が懸念される。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	↘	→		→	→	・中東情勢の悪化により燃料不足という事態に陥っているものの、各スタンドには十分に供給されており、今のところ物流に影響はない。しかし、価格面において5~10円/ℓ前後の差があることから、収益状況は非常に厳しい状態である。
	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・物量は、前年同月比100.1%と変わっていない。 ・中東情勢の悪化による原油価格の高騰によって、前月比+12.2円/ℓとなっている。 ・組合員から、燃料(ローリー)が順調に入ってきているのか心配する声が出ている。